



IBM SPSS Custom Tables

カスタムテーブルを即時に作成

ハイライト

分析結果を簡単に要約して共有

- ドラッグ・アンド・ドロップ機能を使用して、すばやく簡単にテーブルを作成
 - テーブル作成中のプレビューとリアルタイムでの変更
 - 指定カテゴリ除外、欠落値セルの表示、表内への小計の追加など
 - レポート用として、Microsoft® Word、Microsoft Excel、または Microsoft PowerPoint への簡単にエクスポート
 - よく使用するレポートを自動化
-

意思決定者、同僚、お客様などに対し、分析結果のレポートを作成、提出することは、頻繁に行わなければならない業務の1つです。しかし、表形式レポートは作成に試行錯誤が必要となり、時間がかかります。

IBM SPSS Custom Tables では、テーブルを作成する際に視覚的に確認できるので、洗練された正確なテーブルを短時間のうちに作成できます。

SPSS Custom Tables では、レポートする相手に適した形式で、IBM SPSS Statistics データを簡単に要約できます。このモジュールでは、作成の段階においてインターフェースがリアルタイムで更新されるため、テーブルがどのように表示されるかを常に把握できます。また、テーブルに記述統計量や推測（検定）統計量を追加するなど、情報の受け手にわかりやすいようにカスタマイズできます。完成したテーブルは、Microsoft® Word、Excel、PowerPoint、HTML形式にエクスポートできます。

このソフトウェアは、アンケート調査や市場調査、社会科学、データベース/ダイレクトマーケティング、そして企業研究などで定期的にレポートを作成・更新する人たちにとって、理想的なツールです。



SPSS Custom Tables は、情報の受け手がそのまま活用できる情報を提供することが、これまでよりも簡単になりました。以下の機能が含まれています。

- 計算出力フィールド – SPSS Custom Tables の出力内に新しいフィールドを直接作成し、出力カテゴリ(合計、差分、パーセントの差分など)の計算に使用することで、時間と労力を節約
- 有意性検定結果の出力 - 有意性検定結果を、個別のテーブルではなく、SPSS Custom Tables で作成した集計表内に直接出力することで、結果の解釈が容易に
- インタラクティブなテーブル・ビルダー – テーブルを作成しながらプレビュー可能
- カテゴリ管理 - 特定のカテゴリの非表示、欠損値セルの表示、小計の表示が可能
- 有意検定 - 独立性検定 (カイ2乗検定)、列平均の比較 (t 検定)、列比率の比較 (z 検定)
- レポートで使用ため、Word、Excel、または PowerPoint へテーブルを簡単にエクスポート

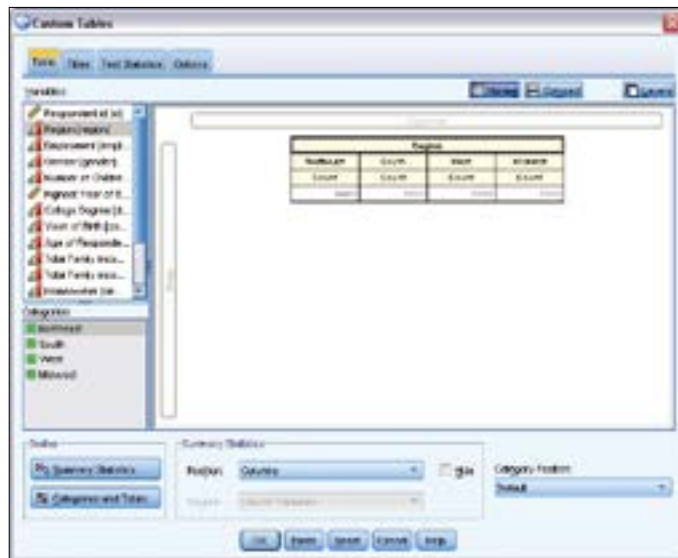
この製品は、クライアント環境用ソフトウェアですが、パフォーマンスや拡張性をご希望の場合には、クライアント/サーバー環境にインストールできます。

作成しながらテーブルをプレビュー

SPSS Custom Tables のGUIはわかりやすく、想像に頼りながらテーブルを作成する必要はありません。ドラッグ & ドロップとプレビューを使用することにより、「OK」をクリックする前に、作成されるテーブルがどのようになっているかを確認できます。

変数を画面上で操作して、カテゴリ型なのかスケール型なのかを確認できます。また、データがどのように構成されるかを即座に把握できます。

使用する変数をテーブル・プレビュー・ビルダーにドラッグするだけでテーブルを作成できます。複雑なシンタックスを記述したり、面倒なダイアログ・ボックスを使用する必要はありません。また、行から列へ、変数を適切な位置に移動させることができます。変更を加えるとすぐにテーブル・プレビュー・ビルダーが更新されるので、組織がどのように変更されたのかを即座に確認できます。直接テーブル・プレビュー・ビルダー内で変数の追加、入れ替え、または入れ子を行うことや、変数ラベルを非表示にしたりすることもできます。さらに、変数は表示したままで、大規模で複雑な表を縮小して簡潔な表示にすることができます。



SPSS Custom Tables の GUI はわかりやすく、想像に頼りながらテーブルを作成する必要はありません。使用する変数をテーブル・ビルダーにドラッグします。この画面に示すとおり、希望するカテゴリを表にドラッグする前に、カテゴリ・リスト (左下) のプレビューが表示されます。

テーブルの構成をカスタマイズ

SPSS Custom Tables のカテゴリ管理機能を使用して、情報を自在に表示することができます。データ・ファイルに変更を加えることなく、合計や小計を表示できます。複数のカテゴリをまとめて1つのカテゴリにすることができ、これは頻繁にtop box-bottom分析を行う場合などに便利です。また、小計の計算に影響を与えることなく、テーブル内のカテゴリをソートできます。

変数の型を変更したり、カテゴリを除外したりすることができますので、テーブルを最適な形に編集することができます。例えば度数のないカテゴリを表示/非表示にすることで、出力をより明確かつ簡潔にできます。あるいはセル内の値に基づいてカテゴリをソート/ランク付けすることで、すっきりとして情報に富んだテーブルを作成できます。

より深い分析を

SPSS Custom Tables を分析ツールとして活用することで、データをより深く理解し、結果をより効果的に示すテーブルを作成できます。使用者が情報を深く掘り下げ、より多くの情報に基づいた意思決定が行えるようなレポート作成できます。

推測統計量を使用すると、分析結果の中で機会や問題点を特定できます。推測検定統計量を使用すると、人口統計グループ、顧客セグメント、期間等のカテゴリ変数の平均や割合を比較できます。また、データ内のトレンド、変化、大きな差を特定することもできます。

さらに、カテゴリ変数の度数といった単純なものから、ちらばりの程度を示す測度といったものまで、さまざまな要約統計量を選択することができます。カテゴリ変数や多重回答グループの要約統計量としては、度数やさまざまなパーセント(行、列、サブテーブル(副表)、テーブル、有効 N) があります。スケール変数の要約統計量およびカテゴリ変数の合計ようやく統計量としては、平均値、中央値、パーセンタイル、合計、標準偏差、範囲、最小値、最大値があります。結果のある徳手う部分に注目する際には、ようやく統計量を使用してカテゴリをソートできます。

テーブルの出力を制御

SPSS Custom Tables の、希望通りの外観のテーブルを作成するための、また時間を節約するためのさまざまな機能が搭載されています。以下を行うことができます。

- 表題と脚注の追加
- 表題部分にテーブル式を使用
- テーブルを作成する際に、列幅の最小値、最大値をテーブルごとに指定

IBM SPSS Statistics Base とともに使用した場合、TableLooks™ やスクリプトといった追加機能によって書式指定のような繰り返し作業を自動化できます。

		Male	Female
		Count	Count
Age category	Less than 25	108	134
	25 to 34	276	351
	35 to 44	309	370
	45 to 54	221	280
	55 to 64	136	184
	65 or older	178	301

2次元クロス集計:この例は、年齢と性別の2つのカテゴリ変数間の関係を示しています。年齢を行変数、性別を列変数として使用し、各年齢カテゴリに属する男性と女性の数を示す2次元クロス集計を作成できます。

		Responses	%
News sources	Get news from television	1077	38.0%
	Get news from internet	867	30.6%
	Get news from newspapers	805	28.4%
	Get news from radio	551	19.5%
	Get news from news magazines	294	10.4%

多重回答設定:多重回答設定は、複数の回答が可能な質問の回答を、複数の変数を使用して記録します。例えば、「ニュース・ソースとして次のどれを信頼するか」といった質問に対して、回答者は5つの選択肢の任意の組み合わせを選択できます。各回答者が複数の回答を選択できるので、パーセントの合計が100%を超える場合があります。多重回答変数に対して有意性検定を実行することもできます。



有意検定結果が出力に示されています。優位検定結果を個別のテーブルではなく、SPSS Custom Tables の出力に直接表示することで、結果を手動で組み合わせる必要がなくなりました。APA ガイドラインに準拠して、違った添え字のついた値は、有意差なし ($p>0.5$) となります。

結果をより簡単に共有

結果が得たあとは、それらを必要とする人に届ける必要があります。SPSS Custom Tables では、結果をインタラクティブなピボット・テーブルとして先う性し、Word や Excel にエクスポートできます。こうすることで作業が円滑になり、また、Word Excel 内でテーブルを調整する必要がないので、時間の節約にもなります。エクスポート後の編集の必要はありません。ただし、必要に応じてテーブル内容の説明を挿入できます。

使用頻度の高いレポートの作成を自動化

々形式のレポートを定期的に作成するなど、過去に作成したレポートを更新するのに時間を費やしていませんか？IBM SPSS Custom Tables のシンタックスや自動化機能を使用すれば、頻繁に作成するレポートをバッチモードで作成できます。

SPSS Custom Tables は、テーブル作成時のマウスクリックを全て記録し、作業内容をシンタックスとして保存します。レポートを自動的に作成するには、それに関するシンタックスをシンタックス・ウィンドウに貼り付け、クリックして実行するだけです。シンタックスと自動化機能を利用することで、レポートを簡単かつ迅速に作成できるようになります。

新しい柔軟な実装オプション

IBM の統計ソフトウェア・スイートは現在、IBM SPSS Statistics Standard、IBM SPSS Statistics Professional、および IBM SPSS Statistics Premium の 3 つのエディションで入手可能です。これらの各エディションは、必要な機能をグループ化することで、企業の成功に貢献する分析を実行するために必要なフィーチャーと機能を、チーム全体または部門全体が確実に共有する効果的な方法となります。-->

より高い価値を創出するコラボレーション

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services と統合して使用することで、分析資産の共有および分散を効率的に行い、社内外のコンプライアンス要件を満たす方法で保護し、分析結果を公開して、より多くのビジネス・ユーザーが閲覧および利用することが可能です。

機能

グラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI)

- テーブルビルダーないのインターフェイスはシンプルで、変数とオプションを選択する際にドラッグ&ドロップでテーブルをプレビューすることが可能
- 異なる種類のテーブルでも、個々のメニューやダイアログ・ボックスを使用するのではなく、統合された1つのテーブルビルダーで簡単にテーブルを作成

テーブル内容の捜査

- 最大で3次元 (行、列、層) のテーブルを作成
- すべての次元に任意の階層で、変数を入れ子にすることが可能
- 同じテーブル内で複数の独立変数のクロス集計を行うことが可能
- 複数の変数の度数を、それぞれ度数表として並べて表示
- 表に複数の変数が含まれている場合、すべてのカテゴリ (回答のないカテゴリを含む) を表示
- 行、列、層のいずれにも複数の統計量を表示
- 行、列、層のいずれにも合計を表示
- カテゴリ変数のカテゴリサブセットに小計を作成
- 出力カテゴリの計算 (合計、差分、パーセントの差分など) を実行して、計算結果を SPSS Custom Tables 内の新しいフィールドとして直接表示
 - 計算値出力フィールドの個数は無制限
- 有意検定結果を、個別のテーブルではなく出力に直接表示
 - Word 文書内で結果を統合する必要がなくなる
 - APA ガイドラインに準拠
- カテゴリ表示順をカスタマイズすることが可能。また、カテゴリの表示/非表示を選択可能
- 拡張されたカテゴリ・オプションを使用することで、データの表示方法をより細かく指定:
 - テーブル内の様々な要約統計量を使用してカテゴリをソート
 - 計算に使用したカテゴリを非表示に設定 (表示されないカテゴリも小計の計算には反映される)

検定統計量

- 以下の有意検定から選択:
 - 独立性のカイ 2 乗検定
 - 列平均の比較 (t 検定)
 - 列比率の比較 (z 検定)
- 次の要約統計量から選択:
- 度数、度数の行 %、度数の列 %、度数のテーブル %、度数の副表 %、度数の層 %、表の行の度数 %、表の列の度数 %、行の有効 N %、列の有効 N%、テーブルの有効 N%、副表の有効 N%、層の有効 N%、表の行の有効 N%、表の列の有効 N%、行の合計 N%、列の合計 N%、テーブルの合計 N%、副表の合計 N%、層の合計 N%、表の行の合計 N%、表の列の合計 N%、最大値、平均値、中央値、最小値、欠損値、最頻値、パーセンタイル、5パーセンタイル、25パーセンタイル、75パーセンタイル、95パーセンタイル、99パーセンタイル、範囲、標準誤差 (SE) 平均、標準偏差 (SD)、合計、合計 N、有効 N、分散、行の合計 %、列の合計 %、テーブルの合計 %、副表の合計 %、層の合計 %、表の行の合計 %、表の列の合計 %
- 各セル、サブグループ、またはテーブルごとの統計量を計算
- 入れ子変数の各レベルあるいはすべてのレベルにおけるパーセントを計算
- 多重回答変数の度数とパーセントを、回答数、あるいはケース数に基づいて計算
- 欠損回答を含む/含まないを選択するための欠損値のパーセント基準を選択
- 有意検定からの小計カテゴリを除外
- 多重回答変数に対して有意検定を実行

書式の指定

- 書式やラベルなどのテーブル表の要素を直接編集
- セルの内容に基づいて、テーブル表を昇順あるいは降順でソート
- コード化された数値の代わりに、ラベルを自動的に表示
- テーブル表の列幅の最小値や最大値の指定 (TableLook を上書き変更)
- テーブル表内の各変数の名前、ラベル、あるいは両方を表示
- 欠損データを空白、ゼロ、ピリオド、あるいはそれ以外のユーザー指定の形式 (「欠損」など) で表示
- ページの表題やテーブル表の表題を、複数行として左/右/中央揃えで表示
- ページやテーブルに脚注を追加
- コーナー・ラベルの指定
- 統計量のラベルをカスタマイズ
- 変数、値、および統計量のラベル全体の表示
- 数値型の結果の書式: カンマ、日付/時間、ドル、F (標準的な数値書式)、負数を括弧で囲む、"N="、括弧 (パーセントを括弧で囲む)、パーセント、カスタム書式
- 既存のTableLooks を結果に適用
- 多重回答データに関連する変数のグループ (セット) を定義し、これをデータ定義とともに保存して、将来の分析で使用
- 基本変数として、長い文字型と短い文字型の両方が使用可能
- 定義されるグループの数やグループ内に含まれる変数の個数は無制限
- 結果はすべてIBM SPSSピボット・テーブルとして作成されるため、後からピボット機能を使用して結果をより容易に探索可能
 - アイコンを移動させて、行、列、層を再構成し、後から分析を容易に行う
 - アイコンをクリックして層を入れ替えることで、サブグループ同士を容易に比較
 - メニューを使用して、テーブル表を元の構成に簡単に戻すことが可能
 - 行、列、層の一番外側の入れ子も入れ替えが可能で、大規模なレポートでは隠れてしまいがちな情報を明らかに

シンタックス

- シンタックスコンバータが、SPSS Tables 11.5以前のバージョンで作成されたシンタックスを CTABLES シンタックスに翻訳

印刷書式

- 1ページに2つ以上のテーブル表を印刷
- ページレイアウトの指定: 上下左右の余白、ページの長さ
- 同じ変数が一連のテーブル表で使用されている場合、global breakコマンドを使用して、変数の各値を表す表を作成

2段階最小二乗法 (2SLS)

予測子変数とエラー条件との間の相関の制御サポート

- 構造方程式および操作変数の使用
- 予測子変数とエラー条件との間の相関の制御設定
- ピボット・テーブルでの出力の表示

プロビット

応答比をロジット変換またはプロビット変換して刺激値を評価

- 変換予測子: 底 10、自然対数、またはユーザー指定の底 (「なし」を含む)
- 自然応答比を推定許可、またはユーザーが値を指定
- アルゴリズム制御パラメーターの使用: 収束、最大反復回数、および異質性因子使用の際の有意水準
- 以下の統計量から選択: 頻度、フィデューシアル信頼区間、相対メディアン潜在性、平行性の検定、観測されたプロビットあるいはロジットを作図
- ピボット・テーブルでの出力の表示

システム要件

要件はプラットフォームごとに異なります。詳細情報の参照先:
ibm.com/spss/requirements

IBM ビジネス・アナリティクスについて

IBM Business Analytics ソフトウェアは、業績改善に取り組む意思決定者に対し、実践的な洞察を提供します。IBM は、ビジネス・インテリジェンス、予測分析と高度な分析、財務パフォーマンスと戦略の管理、ガバナンス、リスクおよびコンプライアンス(GRC)、そしてアナリティック・アプリケーションからなる包括的なポートフォリオを用意しています。

IBM ソフトウェアは、ビジネスの傾向やパターンあるいは異常の発見、仮定に基づくシナリオの比較、潜在的な脅威や機会の予測、重要なビジネス・リスクの特定および管理、さらには経営資源に関する計画、予算および予測を実現します。IBM の世界中のお客様は、この充実したアナリティクスを使うことで、業績への理解を深める一方、成果への予測を高め、目標への確かな道筋をつけることができます。



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19-21

IBM のホーム・ページはこちらからご覧になれます。
ibm.com

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。これらおよび他の IBM 商標に、この情報の最初に現れる個所で商標表示 (® または ™) が付されている場合、これらの表示は、この情報が公開された時点で、米国において、IBM が所有する登録商標またはコモン・ロー上の商標であることを示しています。このような商標は、その他の国においても登録商標またはコモン・ロー上の商標である可能性があります。現時点での IBM の商標リストについては、

ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

© Copyright IBM Corporation 2012



リサイクル可能

Business Analytics software